

こいのぼりが卵産んだ !?

こいのぼりの飾り方を話し合い、「泳いだ方がこいのぼりらしい」「吊り下げるのはいやだ」などの意見が出て、今年は泳がせてみました。しかし、風が強い日は、くるくるとロープに巻き付いてしまいます。おもりになる物をお腹に入れると、巻き付かないのではないかと思い、玉入れの玉を入れてみました。でも・・・やっぱり巻き付きます。

玉入れの玉を入れた日、風が強く尻尾の方から玉が落ちてきていました。それを見たゆり組さん「こいのぼりが、卵を産んだ！」と大喜び。ちなみに私は「こいのぼりさん、うんちしたな」と思っていました。子どもの頭の柔らかさ、可愛さにはかないません。

掲示板でもお知らせしたように

G7広島サミット開催の期間中は、広島市から登園自粛のお願いが出ています。

ひまわりやすにしこども園では、期間中も平常通りの保育を行います。給食も普段通り提供いたします。20日(土)は保育参観日のため、午後保育を希望される方はおかず入りのお弁当を持って来てください。

こども園の横(北側)は、車の往来が多く、道も狭いので駐車はしないでください。

「事故につながりそうだった」と近隣の苦情も出ています。

4月23日は「子ども読書の日」

4月23日から5月12日は「こどもの読書週間」と定められています。「子どもたちにもっと本を！子どもたちにもっと本を読む場所を！！」との願いから定められたようです。

読み聞かせの効果については、法政大学特任教授・尾木直樹氏(尾木ママ)が話されています。

「子どもの感情が非常に豊かに育まれる。絵本を読んでもらっている時には、『大脳辺縁系』と呼ばれる、喜怒哀楽の感情を司る脳の部位が活発に反応することがわかっている。物語の中はハラハラ・ドキドキの連続。登場人物の気持ちになって絵本の世界に入り込むうちに、子どもの心は豊かになり、広やかなものの見方が身につく。親子で一緒に楽しみながら成長できるのが絵本の読み聞かせの魅力です。

短めのお話を理解し主人公の気持ちに共感できるようになるのは3歳ごろと言われています。

それまでは、興味・関心を持つ身近なもの、食べ物、乗り物、虫や生き物などが描かれているものをじっくり絵を見せながら読んでいきましょう。読み聞かせの途中で本を閉じたり、同じページをずっと眺めたり、違うページをめくったりすることはよくあることです。子どもさんのペースに付き合ってください。無理強いはいけませんよ。」

絵本の貸し出しを行っています。給食室前の「絵本コーナー」の絵本です。

随時、保護者の方が子どもさんと一緒に選んでください。貸し出し用の名簿に「子どもさんのクラス名、氏名」「絵本の題名」を記入してください。1回あたり、5冊を目安でお願いします。絵本袋もお使いください。借りた絵本を返してから、次の絵本を借りてください。

しかし…駐車場の関係もあり、手短かにお願いいたします。

読むのは、お家に帰られてからにしてください。